

第2期高知市地域福祉活動推進計画の推進に向けた取組状況等にかかる意見への回答【令和3年8月2日時点】

委員氏名	1 高知市取組報告 (資料1-1, 1-2)	回答
1 三橋委員	<p>① ほおっちょけん相談窓口への研修・フォローについて(1-1P7), どのような体制になっているのか知りたい。現状, 薬局の窓口業務ですら対応が冷たく, 相談したいような雰囲気ではないところも中にはある。折角ほおっちょけん相談窓口へ登録しているのなら相談しやすさが大事だと思う。また, 協力的な薬局であっても, 個人情報の取扱に注意しているのか? 包括に情報を教えてくれないところもある。</p> <p>② ほおっちょけん相談窓口の相談件数について(1-1P6) 旭は12カ所も窓口があるが, 相談件数が13件しかない。小学校などにもチラシを配布し, 広報に力を入れているように思うが, 相談件数が伸び悩んでいる理由を分析してみたい。どこか, 相談が集中している窓口があるのか?</p> <p>③ アウトリーチによる支援など伴走支援について(1-1P10) イメージを教えて欲しい。現状, 制度の間に居る方の支援は市社協が行っていると思うが, 継続的にアウトリーチしている印象がない。</p> <p>④ リコネットについて(1-1P13) 支援者向けページの活用状況を知りたい。今後, 地域ケア会議において検討する地区が決まれば, 市社協から社会資源情報をもらうことになっている。リコネットを活用すれば, 地域ケア会議の場以外でも市社協に聞かなくても, 例えば, 居宅の事例検討会などの場面で頻りに地域資源活用を検討できるのではないかと。また, ネットが見れない高齢者に向けて地区ごとに冊子にする予定はないか?</p>	<p>① ほおっちょけん相談窓口に対しては, 開設前に, 相談員研修を行っており, 地域福祉活動推進計画の内容や実際の相談に対する対応方法, 相談内容に応じた行政等のつなぎ先などを周知しています。また, 高齢者の方の相談が多いことを想定し, 地域包括支援センターについての説明も行いました。</p> <p>また, 昨年12月には, 開設後のフォローアップ研修を開催し, 寄せられた相談内容や対応状況などの共有, 意見交換を行い, スキルアップを図りました。</p> <p>そのほか, 定期的に高知市社会福祉協議会CSWが状況確認や支援を行うとともに, 高知くらしつなぐネット(愛称「Licoネット」)での各種情報の共有を行うなど, 相談窓口, 市, 市社協は, 日常的に連携するよう努めています。</p> <p>今後も相談窓口のスキルアップを図るとともに, 日々の連携を強化していきますが, ほおっちょけん相談窓口は, 本来業務に支障がない範囲でご協力いただいているものですし, 相談支援の専門家が窓口配置されているものでもありません。地域包括支援センターをはじめ, 各専門機関の皆様におかれましては, ほおっちょけん相談窓口についてご理解いただき, 支援いただければ幸いです。また, 個人情報の取扱については, 情報漏洩の無いように徹底しています。どこに情報をつなぐかは, それぞれの窓口において判断しておりますのでご理解いただければと思います。【高知市(地域共生社会推進課)】</p> <p>② ほおっちょけん相談窓口については, 学校や町内会, 民生委員児童委員の皆様のご協力を得て, 周知に努めており, 今後も様々な機会を通じた周知に取り組んでまいります。また, 行政等の相談窓口も含めて, 市民の皆様が困りごとを相談しやすいところに, 気軽に相談できる包括的な相談支援体制づくりを進めてまいります。【高知市(地域共生社会推進課)】</p> <p>③ 地域福祉コーディネーターは人や様々な資源をつないでいく「つなぐ役割」を担っており, 地域の関係者や様々な社会資源等を通じて把握した情報を必要な支援(機関)へとつないでいます。</p> <p>具体的には, 地域の関係者や様々な社会資源から情報提供を受けることができるよう, 日頃から良好な関係性を構築しながら, 地域住民とのつながりや様々な相談支援機関等のネットワークを活用して対象者情報を早期に把握するよう努めています。また, キャッチした情報に基づき, 生活課題を抱えながら福祉の支援を受けていない方については, 各種専門支援機関等へのつなぎを行うなど, アウトリーチによる支援, 継続的な伴走支援につながるよう取り組んでいます。</p> <p>また, 生活支援相談センターのアウトリーチによる支援は, 伴走型支援と解決型支援の両輪で行っていく必要があるものと考えており, ひきこもりの方などについては, その方の転機を見逃さないように他の支援者や地域住民と連携をしております。ゆっくりと長くアプローチしないと初回面談に繋がらない方も多い状況で, 訪問のみでなく, 電話連絡や手紙, 時にはメール等も活用しながら関係性の構築を図っています。</p> <p>その他, 本市におきましては, 多様化・複雑化した課題を抱える地域住民及びその世帯に対し, 相談支援を担う関係部署職員が連携・協働して対応するため, 令和3年5月から関係部署に包括的相談支援員を配置しています。定期的な包括的相談支援員会議を通じて, 制度の狭間にいる方の支援についても検討しています。【高知市(福祉管理課・地域共生社会推進課)・高知市社会福祉協議会(共に生きる課・地域協働課)】</p> <p>④ 住民向けページのページビュー数は, 月約12,000件となっております。支援者向けページのビュー数は測定できないのですが, 支援者向けページへのログインアカウントをお持ちの約900の事業所等のうち, 積極的に活用されていると思われる, 月30回以上ログインをしている事業所等が1か月あたり14程度となっております(令和3年4月時点)。</p> <p>なお, 高知市介護保険課では, 今後, 事業所等への通知文書の送付をFAXからLicoネットに切り替えることとしており, 現在の移行期間となっていることから, こうした取組も通じてLicoネットの周知と活用を進めたいと考えております。</p> <p>地域資源の情報につきましても「高知くらしつなぐネット(愛称Licoネット)」で検索・閲覧が可能ですので, ご活用いただきたいと思います。Licoネットにつきましては, 掲載情報の充実や利用促進のための改善に努めているところです。活用に向けた周知を引き続き行ってまいります。</p> <p>また, 資源情報はすでに高知市各課や高知市社会福祉協議会において分野ごとや地区ごとで紙媒体での情報提供がされている状況もあるため, 冊子化して配付する予定はございませんが, インターネットでの検索が困難な方へは, 必要に応じて, Licoネットの検索結果を印刷して配付するなどの方で, 各事業所においても対応していただくことが可能ですので, よろしく願います。【高知市(地域共生社会推進課)】</p>

	委員氏名	1 高知市取組報告 (資料1-1, 1-2)	回答
1	三橋委員	<p>⑤ 高知市社会福祉協議会への支援について(1-1P14)市の関係者とコーディネーターの連携を深めるとあるが、具体的にどのような事を行っているか?</p> <p>⑥ 高知市内の連携を深める事も大事だと思うが、他市町村社協が当然行っているだろう業務も高知市社協は行っていない。その事が、市民の不満につながっていると感じることが多々ある。他市町村社協を見習うことも大事ではないだろうか。市民の満足度を向上して欲しい。</p> <p>⑦ いきいき百歳体操会場新規立ち上げ15件について(1-2)参考資料「会資源の状況」にも掲載されているが、いきいき百歳体操は増減している。立ち上げ15か所だけにスポットを当てず、なぜ休止・中止になった会場があるのかに焦点をあてているだろうか?いき百応援団が訪問調査した結果などを是非教えて欲しい。</p> <p>⑧ 民生委員協力員創設について(1-2)福祉委員から協力員へ変更した方も居ると聞いたが、協力員と福祉委員の違いを改めて教えて欲しい。一般市民には非常にわかりにくいと感じる。</p>	<p>⑤ 地域共生社会推進課では、高知市社会福祉協議会地域協働課主催の研修会等に参加し、地域福祉コーディネーター活動の検討をする中で、市の関係課との連携が必要となる事例が出てきた場合、市役所関連部署等と合同研修会や情報交換の場を企画しています。特に令和2年度から、子育て分野、障害分野との研修会や情報交換会を開催してきました。</p> <p>また、高齢分野では、主に地域における社会資源の開発や、関係機関との連携体制の構築等において、地域福祉コーディネーターと基幹および地域包括支援センターと以下の連携を実施しています。(1)地域ケア会議への参加(14地域包括支援センターごと、2か月に1回開催)(2)第2層協議体活動における連携(随時)(3)認知症カフェやサロン等の地区事業における協働(随時)(4)ブロック会の開催(東西南北の4圏域ごとに行う地域包括支援センターとの情報交換会。毎月開催)(5)地域課題の整理に関するミーティング(随時)【高知市(地域共生社会推進課・高齢者支援課)】</p> <p>⑥ 市区町村社会福祉協議会は、全国に1,825か所(令和3年1月1日現在)が組織され、地域課題の解決に取り組んでおり、業務内容には社協独自の取組や地域団体、関係機関との連携した取組があります。その取組にあたっては、市町村ごとの地域特性の違いや、その市町村自治体の考え方・役割分担等もあり社協に求められる役割も様々です。高知市社協としても、県社協からの情報提供や全国の社協ネットワークを活用して先進事例を学びながら、高知市の地域特性に合った取組ができるよう努めてまいります。</p> <p>現在、本市においては、令和4年度実施予定の重層的支援体制整備事業の準備の中で、包括的な相談支援のあり方等の検討も実施しており、市と市社会福祉協議会がともに連携して支援を充実していくために、今後も委員の皆様から忌憚のないご意見をいただければと思います。【高知市(地域共生社会推進課)・高知市社会福祉協議会(地域協働課)】</p> <p>⑦ 平成30年度末までに廃止になった会場の状況を確認すると、廃止の原因で最も多かったのが、参加人数の減少で全体の46%、続いて会場が使用できなくなった等体操会場の都合が22%、お世話役の不在が16%、住民同士のトラブル7%等となっております。参加者の減少やお世話役の不在は体操開始後15年以上が経過し参加者の高齢化が一層進んでいることが背景としてあります。継続している会場は、減っても新たな参加者が入ったり、お世話役だけに頼らず参加者みんなで体操会場を支えられるよう役割分担したり、サポーター育成教室に参加し後継者を増やす等の工夫がされています。このような情報を体操会場に提供するとともに、新規参加者が増えるよう普及啓発に力を入れ、また体操会場を支える人材を増やすサポーター育成教室の開催等の継続支援を、いきいき百歳応援団等と協力しながら取り組んでおります。</p> <p>いきいき百歳応援団の体操会場への訪問調査では、体操会場の状況を確認し、体操会場継続の条件や課題の抽出等を行い、必要に応じて行政とともに支援策を検討実施しています。また、訪問した体操会場の情報や参考になる取組については、体操会場運営のお世話役やサポーターの活動支援として、いきいき百歳新聞に掲載し全体操会場に配布しています。新聞に掲載されることで、参加者やお世話役は喜び、新聞取材の依頼も増えていることからモチベーションアップにつながっていると考えています。【高知市(高齢者支援課)】</p> <p>⑧ 民生委員・児童委員協力員は、市長の委嘱であり、活動内容は民生委員がその活動を行うにあたって必要な補助をするボランティアで、協力員の活動の核になるのは、あくまで民生委員となります。そのため、協力員の活動は、民生委員の指示や依頼によるものとなります。また同時に、民生委員の活動内容の把握にもつながるので、民生委員の後任育成といった一面もあり、実際、協力員から民生委員になられた事例もあります。一方、福祉委員は、市社協会長の委嘱であり、活動内容は福祉のまちづくりを推進する活動全般で、具体的な活動は指定していません。地区社協所属ではありますが、地区社協からの依頼や指示で活動を行うものではなく、福祉委員の自発的な活動によります。【高知市(健康福祉総務課)・高知市社会福祉協議会(地域協働課)】</p>

	委員氏名	1 高知市取組報告 (資料1-1, 1-2)	回答
2	長尾委員	<p>地域活動支援制度については、全庁的に本気で検討してもらいたい。(昨年の推進委員会はあまりにもおそまつと思う)</p> <p>今まで支援している団体については総括し整理すべき。</p> <p>補助要項は難しく考えないで簡素にお願いしたい。</p>	<p>高知市型共生社会の実現には、地域コミュニティの存在とその働きがなくてはならないと考えていますが、その中核となる町内会や自治会においては、役員の高齢化や固定化、担い手不足、活動への参加者の減少等による活動の停滞に頭を悩ませているとお声をお聞きしています。また、これは、町内会だけでなく、地域で活動する様々な団体の共通の課題ではないかと存じます。</p> <p>本市では、そのような状況にある地域のコミュニティの立て直しのために、地域内連携協議会などの設立を通じたコミュニティの再構築に取り組んできているところであり、地域共生社会の実現に向けて、地域でのコミュニティ活動を持続可能なものとしていくための支援として「市税の1%を地域活動に活用・還元する」制度の創設を目指しています。</p> <p>現在、市民協働部としての考え方をまとめている状況でございますが、6月末までに、地域内連携協議会をはじめ連携協に属する各種団体等へのヒアリングを実施し、その結果や、今年度、試行している「市民活動活性化事業費補助」制度の活用状況も加味して具体的な制度案をとりまとめる予定です。【高知市（地域コミュニティ推進課）】</p>
3	葛目委員	<p>共生社会推進課への昇格強化を評価します。「Licoネット」は地道な改善が進んでおり、成果のほどはまだ分かりませんが徐々に市民生活に定着してくることを期待しています。</p> <p>①「ほおっちょけん相談窓口」にコロナ関連の相談がどれだけあったのか、特にワクチン予約について何らかの役割が果たせたのでしょうか。第二次モデル地区の一つである秦地区においてはお陰様で作業が着実に進んでいます。開設と並行して地域への理解とほおっちょけん意識の浸透を図るよう進めています。</p> <p>②庁内組織を活発化して町内会、自主防災組織、公民館活動をからめた福祉による地域づくりを強力に進める方向を打ち出して欲しいと思います。</p>	<p>① ほおっちょけん相談窓口に寄せられた相談の中で、新型コロナウイルス感染症に関わる相談は、2件となっています。また、数字としてはあがっていませんが、多くの窓口では、新型コロナワクチンに関するご相談を聞いていただいたり、高齢者の皆様のweb予約のお手伝いしていただいたと聞いています。【高知市（地域共生社会推進課）】</p> <p>② 庁内連携を進める中で、地域単位で活動する団体・組織の運営や活動の支援を進め、活動の活性化につなげていきたいと考えています。また、地域単位で活動する団体・組織等は地域によって異なることから、地域の状況を把握した上で、実情に応じた支援を検討しています。【高知市（地域共生社会推進課）】</p>
4	島元委員	<p>① 「障がい」の「ことば」の変更。障がいを含まない、適切な「ことば」がないか考えてみてはどうか。 例「ろうあ」→「認知」, 「精神薄弱」→「知的」</p> <p>② 高齢者社会が加速するなか、日常業務、とりわけ不燃物、チリのステーションへの持出しが困難になる方が多数になることが推察される。それを支援するシステムが必要になるため、地域への強化をはかって頂きたい。</p>	<p>① 「障がい」の表記については、現状では一般に浸透している言葉であり、現時点では変更することには至らないと考えています。【高知市（障がい福祉課）】</p> <p>② 本市では、高齢者等ゴミ出しが困難な世帯へのゴミ出し支援については、共助の支え合いも視野に入れ、環境部及び健康福祉部等庁内関連部署にて課題の把握、解決の方向性について具体的に検討しています。</p> <p>また、高齢者や障害のある方が、住み慣れた地域で安心して暮らすことができる環境づくりを目的として、令和2年4月から、家庭ごみを集積所に出すことが困難な世帯を対象に、訪問による玄関先からのごみ収集と、必要な方には安否確認（声掛け）を行う「ふれあい収集」を市全域で実施しています。</p> <p>ふれあい収集の対象世帯は、要介護認定者等のみで構成された世帯のうち、世帯員自らごみを集積所まで持ち出すことが困難で、親族や近隣住民などの協力を得ることができない世帯となります。【高知市（新エネルギー・環境政策課・地域共生社会推進課）】</p>
5	細川委員	<p>市職員の方の異動は必要な事は分かりますが、業務に慣れた頃に異動されるのは残念です。地域福祉は人と人の部分が大なので、各部の連携体制を強化して頂きたい。</p>	<p>担当職員の異動では、委員の皆様をはじめ、地域の皆様は大変ご迷惑をおかけしていることと存じます。</p> <p>各部の連携体制の強化としましては、まちづくり、防災、福祉など、地域の皆様と関わることの多い部署の職員で集まり、連携や情報共有を強化する取組（防災福祉部会）を進めるとともに、介護や障害、子育てなど、個別の相談支援を担う部署では、互いに協働して支援方法を検討し、支援するためのガイドラインの作成に取り組んでいます。</p> <p>なお、ご意見のとおり、地域福祉は人と人との関係がとて大切だと考えていますので、担当職員が異動になった場合には、事務の引継ぎのみでなく、人と人との関係もつながるような引継ぎ方法を心掛けるなど、丁寧に引継ぎを行うとともに、今後さらに部局間の連携を強化し、誰が担当になっても、地域の皆様との協働が途切れないように努めてまいります。【高知市（地域共生社会推進課）】</p>

委員氏名	1 高知市取組報告 (資料1-1, 1-2)	回答
6 松下委員	<p>① 地域共生推進本部発足により全庁的な取組体制が構築されたと思いますが、「全ての部局で理念を共有」し、全ての「施策へ反映・推進」するためには、職員一人一人が共生社会の理念を理解し共有することが肝要です。高知市役所の職員教育研修課程に盛り込み、日常の業務と関連付けた教育訓練など検討なさってはいかがでしょうか。</p> <p>② 「ほおっちょけん相談窓口」の設置は、地域の困りごとを解決する「地域力」の構築を目指すところに重要な意義を持つものと理解します。そのうえで、窓口を「薬局」や「社会福祉法人」に限定することなく、「ふれあいセンター」や「量販店」「商業施設」「商店」などの地域資源に幅広く参加してもらってはどうか。また、町内会や各種地域団体等の住民組織のネットワークや、民生委員、福祉委員などの人的資源の発掘と活用も、課題解決のプロセスで重要な役割を果たすものと思います。</p>	<p>① ご提案のとおり、地域共生社会の実現に向けては、市全体での理念の共有が重要であり、5月に開催した第一回地域共生社会推進本部会においても、職員の人材育成の重要性について、市長、副市長、各部局長と確認しました。現在、階層別の職員研修などで、地域共生社会に関する研修を行うなど、具体的な人材育成方法について、人事課と調整を進めており、全職員に理念が浸透するよう努めてまいります。【高知市（地域共生社会推進課）】</p> <p>② ほおっちょけん相談窓口は、気軽に相談できる窓口であることを目指すとともに、ほおっちょけん相談窓口の設置をきっかけに、地域の困りごとを解決する「地域力」の強化を図ることも目的に取り組んでいます。そのため、ほおっちょけん相談窓口となる薬局や社会福祉法人だけではなく、地域の様々な団体、企業の方が日々見聞きする地域での困りごとを持ち寄り、膝を突き合わせて、地域でできることを話し合う機会をつくっていくことが重要と考えております。</p> <p>これまで培われております、町内会や各種地域団体、民生委員児童委員の力、ネットワークに、ほおっちょけん相談窓口や企業等の力、ネットワークを重ねることで、地域での「支え合い・助け合い」が重層的に組み合わせられ、より細やかなネットワークへと強化されるよう、取り組んでいきたいと思っております。</p> <p>なお、薬局及び社会福祉法人以外へのほおっちょけん相談窓口の設置に関しましては、令和4年度の全市展開に合わせて検討してまいりたいと考えています。【高知市（地域共生社会推進課）】</p>
7 高橋委員	<p>コロナ禍で思うようにならない状況の中で、行政として日々地域福祉計画の推進にご尽力いただきありがとうございます。</p> <p>資料1-1, 1-2を数回読み返しました。私の能力不足で十分な読み取りができていないと思いますが、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期計画策定の取組で①各体制作りとその強化と②高知市社会福祉協議会への財政、人的支援等が強力になされているんだなと感じたことでした。 ・R3.4.1施行の社会福祉法改正の中の、地域づくりに向けた支援体制整備の具体的な形（場や機能、事業の運営形態等）や構想をもっと知りたいと思いました。 	<p>地域づくりに向けた支援につきましては、本市において令和4年度実施予定の重層的支援体制整備事業の準備の中で検討していきますので、詳細内容等、今後の協議会等でご報告させていただきます。【高知市（地域共生社会推進課）】</p>
8 仲田委員	<p>① 資料1-1.4ページにあります、地域共生社会推進本部で実際に協議されたこと、もしくは今後協議していくことがございましたら可能な範囲で教えてください。</p> <p>② 資料1-1.6ページにあります「ほおっちょけん相談窓口」への相談のうち、対応できなかったもの、想定していなかったものなどはありますか。</p> <p>③ 資料1-2に関しまして、第二期（2019年から2024年）の計画進捗が時系列で分かる資料があるとなお計画の実施状況がわかりやすくなるのではないのでしょうか。</p>	<p>① 5月10日開催の第一回推進本部会では、高知市型共生社会の実現に関して理念の共有を図ったほか、令和4年度から開始予定の重層的支援体制整備事業のこと、人材育成の重要性などを協議いたしました。今後は、高知市型の包括的支援体制の構築や、避難行動要支援者対策、市税の1%を地域活動に活用・還元する制度など、具体的な施策について協議を進めてまいります。【高知市（地域共生社会推進課）】</p> <p>② ほおっちょけん相談窓口では、相談内容に応じた、適切な支援機関につなぐことをお願いしております。実際には、福祉課題だけではなく、様々な相談が寄せられています。相談内容は、介護や障害、生活に関することなどがありました。ほおっちょけん相談窓口で解決ができない内容につきましては、地域包括支援センターや、高知市社会福祉協議会等の支援機関につないいただき、解決に向けた支援を行っています。相談の中には、近隣とのトラブルに関する相談もあり、その場合には住民同士での解決をお願いする場合がありますので、支援機関等が解決できない事例となっています。また、ひきこもり等すぐに解決しない相談もありますが、その場合には支援機関にて継続的に支援をしています。【高知市（地域共生社会推進課）】</p> <p>③ 地域福祉活動推進計画の進捗状況につきましては、実施状況等が委員の皆様、市民の皆様に分かりやすい資料づくりをしていきたいと思っております。今後とも、わかりやすい提示資料等の作成について忌憚のないご意見をいただければと思います。【高知市（地域共生社会推進課）】</p>

	委員氏名	2 高知市社会福祉協議会取組報告 (資料2-1, 2-2)	回答
1	三橋委員	<p>① 生活支援ボランティア養成講座について(2-1P6)基本的に原則無料とある。しかし、(2-1P8)今後の課題の所に笑顔マイレージ登録者のアンケートではちょっとした生活支援42%が興味あると書いてあるが…。笑顔マイレージでボランティアをするとポイントが貯まって、商品券等に交換できるが、生活支援ボラは無料となる。不公平感が生まれないか？他の市町村や県外の事例などを参考に、安価で頼みやすい生活支援ボラ体制の整備を期待する。</p> <p>② 地域福祉コーディネーターの資質向上について(2-1P18)職歴や経験年数に左右されない知識の積み上げと書いてあるが、せっかく民間採用でコーディネーターを採用しているのに職歴が活かされていないのか？民間の風を社協内に吹かせてはどうだろうか？</p> <p>③ ほおっちょけんの住民意識づくり(2-2P1)ほおっちょけんグッズを作成するのは啓発の面で良いと思うが、塗り絵やラインスタンプまで新たにグッズ展開する必要があるだろうか？予算編成はどうなっているのか？貴重な市民の財産を無駄にしないほしい。</p> <p>④ 既存ボランティアへの情報発信(2-2P2)気くばりさん等へ郵送してボランティア情報を出していると思うが、繋がった事例4件は少なすぎるのではないかと？郵送費用等コスト管理を考えて、もっと効率的なボランティアコーディネートを目指したい。気くばりさんへのアンケート結果について拝見したが、登録はしたものの活動は出来ない方が多かったようだ。活動がしたくなるような働きかけを工夫して欲しい。</p>	<p>① 現在、高知市では、介護予防・日常生活支援総合事業を活用した地域住民主体の訪問型サービスB事業として、調理、掃除、買い物代行等の生活支援サービスのモデル事業の開始を検討しています。運営主体は医療・社会福祉法人、NPO法人、ボランティア団体、株式会社等を予定し、地域展開においては、担い手である地域住民の「やりたい」や「参加したい」内容を重視し地域内で協議を行いながら進めており、運営事業所の支援者(ボランティア)へ「こうち笑顔マイレージ」によりボランティアポイント還元について検討しています。</p> <p>また、現在、高知市社会福祉協議会養成の生活支援ボランティアとして活動されている方からは「有償になることで必ず対応しなければならない」と思ってしまう負担感が増す」「これまで通り無償で出来る範囲で取り組む方が長続きする」といった意見も聞かれているため、他市町村の事例も参考にしながら、活動者それぞれのニーズによって活動を選択できるような仕組みを整えていきたいと考えています。【高知市(高齢者支援課)・高知市社会福祉協議会(地域協働課)】</p> <p>② 地域福祉コーディネーターについては、社会福祉分野の専門資格を有している職員の他に異業種からの転職者もあり、そこで培ってきた経験が地域福祉を多角的に捉えるうえで大きな強みとなっています。</p> <p>ただし、地域課題をニーズとして捉え、解決すべきものとして選びとるためには、社会福祉の専門性の向上が必要だと考えており、さらには住民の理解を得ることや課題を解決しようとする住民力を見通す力も必要です。</p> <p>それぞれの職員が持つ特性を活かしながら、各圏域での会議や専門研修等で補っていきませんが、これからも専門機関と協働しながら相互の役割を認識し、課題を共有していかなければいけないと考えています。今後ともご理解とご協力をお願いします。【高知市社会福祉協議会(地域協働課)】</p> <p>③ ほおっちょけんグッズは、高知市社協のPRツールとして、受け取った住民が日常で使用することで、ほおっちょけんの意味することや学習したことを思い出すきっかけとして作成しています。また、他の住民の目に触れることによる啓発効果も期待しており、その作成費用は、赤い羽根共同募金の助成と市社協の自主財源で賄っています。</p> <p>ほおっちょけんシール(令和3年3月末時点 4,864枚配布)は、主に高知市内の小中学校等の児童生徒等を対象とした啓発のため作成しており、昨年度は新たにエコバッグ及びクリアホルダーを作成し、高知市社協の賛助会員の方への配布、また寄付者へのお礼として活用することで、啓発と高知市社協のPRにつなげています。</p> <p>なお、塗り絵については、子どもたちへのほおっちょけん学習の際の活用を計画しており、コロナ禍の中で作成を見送っていましたが、資料に誤って記載しており、お詫びして訂正いたします。委員の皆さんのご意見を伺いながら、今後も効果的なグッズの作成や啓発活動に努めていきます。</p> <p>LINEについては、コロナ禍の中、情報の発信や相談機能のツールとしてその活用が期待されており、市社協においても導入を予定しています。最近では、若者から高齢者まで利用される方が増加しており、スタンプの作成による販売も含め市社協の周知度の向上にもつながるものと考えています。【高知市社会福祉協議会(地域協働課・総務調整課)】</p> <p>④ ボランティアへの情報発信につきましては、昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大の影響もあり、発信できる情報自体が少なかったことが減少した要因であると推測していますが、マッチングの割合は例年通りの5割程度になっています。</p> <p>現在も、コロナ禍における活動が制限され、ボランティアと受入側とも十分な活動ができていない状態が続いており、この状況が長引くと、活動者のモチベーションが低下しかねないことから、ボランティアセンターでは、昨年度は試行的に非対面式のリモートによるボランティアを実施しました。画面上での対面でしたがボランティアと受入側とも好評でした。</p> <p>今後も少しでも多くの事例ができるように、皆様からアドバイスやご意見を聴きながら、受入側とボランティアをつないでいくための創意工夫に取り組んでまいります。【高知市社会福祉協議会(地域協働課)】</p>

	委員氏名	2 高知市社会福祉協議会取組報告 (資料2-1, 2-2)	回答
1	三橋委員	<p>⑤ 共同募金について(2-2P6)「助成審査の仕組みを評価」?日本語の意味がわからない。</p> <p>⑥ 助成を受けたい団体に情報が届いていない事が多々ある。情報開示・提供は社協の事業ではないのか?</p>	<p>⑤ ご意見の“助成審査の仕組みの評価”ですが、高知市社協が高知市共同募金委員会として令和元年度から新規開始した助成事業を示しています。</p> <p>助成金の交付先を選ぶ仕組みとして審査委員会を設置し、そのメンバーは寄付者の代表、地域団体の代表のほか、学識経験者や青年会議所等の方を含めた委員で構成しており、また、審査方法を昨年度から申請団体によるプレゼン方式を採用するなどのより良い助成事業としていくために試行錯誤しながら取り組んでいるところです。こうした取り組みを、高知市共同募金会の審査委員や運営委員に図ることで内容を評価し、仕組みを改善していくことを主旨として記載しましたが、分かりにくい表現となっておりましたことをお詫びいたします。【高知市社会福祉協議会(地域協働課)】</p> <p>⑥ 助成事業における情報提供として、高知市共同募金委員会の助成事業の周知は、地区における会合等での説明やホームページをはじめとするSNS・ふれあいセンターや市民会館等でのチラシの掲示や配布を行いました。</p> <p>また、他にも高知県共同募金会や高知県社協が実施している助成事業をはじめ、他機関が実施している助成事業についても情報提供があれば、随時把握している助成金を活用したい団体にお伝えしています。</p> <p>なお、今後もSNS等による情報発信や地域の会合や関係機関との会議等を通じて情報共有するなどできるだけタイムリーな情報提供に努めてまいります。地域の皆様、関係機関の皆様におかれましては情報提供につきましてご協力を賜りますようお願い申し上げます。【高知市社会福祉協議会(地域協働課)】</p>
2	長尾委員	<p>ほおっちょけん相談窓口について、現在モデル地区で実施しているが、手を上げてくれる薬局が非常に少ない。市税1%還元制度の補助金を導入してはどうか。(市の取り組みにも該当する)</p>	<p>高知市型共生社会の実現には、地域コミュニティの存在とその働きがなくてはならないと考えていますが、その中核となる町内会や自治会においては、役員の高齢化や固定化、担い手不足、活動への参加者の減少等による活動の停滞に頭を悩ませているとお声をお聞きしています。また、これは、町内会だけでなく、地域で活動する様々な団体の共通の課題ではないかと存じます。</p> <p>本市では、そのような状況にある地域のコミュニティの立て直しのために、地域内連携協議会などの設立を通じたコミュニティの再構築に取り組んできているところであり、地域共生社会の実現に向けて、地域でのコミュニティ活動を持続可能なものとしていくための支援として「市税の1%を地域活動に活用・還元する」制度の創設を目指しています。</p> <p>現在、市民協働部としての考え方をまとめている状況でございますが、6月末までに、地域内連携協議会をはじめ連携協に属する各種団体等へのヒアリングを実施し、その結果や、今年度、試行している「市民活動活性化事業費補助」制度の活用状況も加味して具体的な制度案をとりまとめる予定です。【高知市(地域コミュニティ推進課)】</p>
3	葛目委員	<p>コロナ対応を行いながらの地域福祉活動推進は、困難な中にも関わらず一定の成果を上げていると評価します。</p> <p>「ほおっちょけん相談窓口」開設作業はコーディネーターのサポートで着々と進んでおり、市、市社協の動きを有難く思います。今後コロナの収束を待って益々活発な展開ができることを期待しています。その時は地区社協の活動に留まらず、地区内の町内会連合会、自主防災組織連絡協議会を巻き込んで地域づくりの活動として取り組んでいきたいと思っておりますので、ご支援をよろしくお願いいたします。</p>	<p>「ほおっちょけん相談窓口」の開設準備に限らず、様々な地域福祉活動の取組において、ご協力をいただきありがとうございます。</p> <p>秦地区におきましては、秦2025年問題検討会等の取組によって進めてきた地域課題の洗い出しや団体間の連携など地区社協を中心とした取組の展開によって培われてきた地域の福祉力を活かすとともに、「ほおっちょけん相談窓口」の取組を通じて福祉力の更なる向上に取り組んでまいります。【高知市社会福祉協議会(地域協働課)】</p>
4	島元委員	<p>新型コロナウイルス感染症への対応。生活福祉資金特例貸付の対応は、多忙をきわめご苦労様です。これからも一般貸付に取り組んで頂きたい。</p>	<p>令和2年3月より生活福祉資金特例貸付(緊急小口資金・総合支援資金)の対応が非常に多くなっておりませんが、通常の貸付である福祉資金や教育支援資金も令和2年度61件の実績があり、令和元年度合計60件と比較しても変わらない状況です。今後も必要の方に貸付ができるよう取り組んでまいります。【高知市社会福祉協議会(共に生きる課)】</p>
5	細川委員	<p>コロナ災害の中、可能性を探して色々頑張ってください。感謝しております。ありがとうございます。</p> <p>多くの行事・会議が出来ない中、対応が困難だと思うので対策した上で少人数の集会を願いたいです。「いき百」でも多くの方が待っていたと再開時喜ばれ、必要な事だと改めて感じお世話役も消毒やマスク等に気を付け、人数の多い所は二部制にして頑張ってください。</p> <p>ほおっちょけんの活動取組についてはやはり住民への啓蒙が大切なので経費発生もありますが、広告宣伝の必要性を感じます。</p>	<p>ほおっちょけん相談窓口の広報に関しては、開設時には町内会や民生委員児童委員の皆様を通じて周知し、高知市の広報誌への掲載(2020年3月号、2020年11月号)や各種メディア等の活用など高知市全域を対象とした広報を実施し、各地域の実情に応じた形でのきめ細やかな広報にも取り組んできております。</p> <p>江ノ口地区においては、ほおっちょけん相談窓口に寄せられる困りごとの解決に向けて話し合う「ほおっちょけんネットワーク会議」に高知新聞販売所の方にも参加していただき、地域住民への情報発信についてもご協力をいただいております。</p> <p>今後は、そのような好事例も参考に、各地区の実情に応じた形で広報・啓発活動を進めてまいります。【高知市(地域共生社会推進課)・高知市社会福祉協議会(地域協働課)】</p>

委員氏名	2 高知市社会福祉協議会取組報告 (資料2-1, 2-2)	回答
6 松下委員	<p>新型コロナウイルス感染症の影響を受け、生活困窮に対応した生活支援貸付制度の相談や手続き等でご苦労されたことと思います。</p> <p>既に貸付金の据置期間が終了し償還時期を迎えていますが、新型コロナウイルス感染症は収束に至らず、生活困窮状態から抜け出せないまま償還に困難を極めている方も多いのではないかと察します。生活困窮と償還苦の二重の困難に対して、償還猶予措置や生活保護制度等の利用支援の取組みを一層強化されるよう期待します。</p>	<p>生活福祉資金貸付における緊急小口資金及び総合支援資金の償還につきましては、厚生労働省より令和4年3月末日まで据置期間延長（償還猶予）の発表がありました。</p> <p>今回の特例措置では、二つの資金とも、償還時において、なお所得の減少が続く住民税非課税世帯の償還を免除することができます取扱いとしていますが、現時点では具体的な内容の通達は来ておりません。</p> <p>また、生活保護制度の利用支援につきましては、申請窓口への同行支援も含め、生活支援相談センターが高知市福祉管理課と連携し、引き続き取り組んでまいります。【高知市（福祉管理課）・高知市社会福祉協議会（共に生きる課）】</p>
7 高橋委員	<p>資料を拝見し、コロナ禍の長期化、様々な広がりや業務の量も内容も増えて大変な状況であろうかと推察いたします。</p> <p>資料2-1 P5 ほおっちょけん相談窓口の取組を拝見している時に、6月1日配達の高知新聞折り込みチラシが目にとまりました。「堀内販売所News Letter 6月号」の今月ピックアップに5月10日（月）に開催されたく江ノ口ほおっちょけんネットワーク会議>のことが出ていました。資料と照らし合わせて読み、地域住民の一人として、タイムリーで、より身近な情報発信の必要性を感じました。</p>	<p>江ノ口地区ほおっちょけんネットワーク会議には、地域住民や専門職に加え、地域の企業も参加することで、それぞれの強みを活かしたつながりのあるまちづくりが進められています。今回、記事を掲載された堀内販売所さんには、会議への出席だけでなく、こうした取組の情報発信について協力いただいたところです。今後も、様々な機関の協力や媒体等を活用することで、タイムリーな情報発信に努めてまいります。【高知市社会福祉協議会（地域協働課）】</p>
8 仲田委員	<p>資料2-1.18ページにあります課題の三つ目、コロナ禍を乗り越える支え合いの地域づくりに関して、いきいき百歳体操などの活動に参加したくてもできない高齢者の方のニーズなどは把握されていますでしょうか。またそうした方に向けた取組みは行われているのでしょうか。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により外出自粛が長期化するなかで、つながりを途切れさせないため、活動者や参加者が再開させることへの不安の軽減や新しい生活様式の中で活動を展開させるために支援をしています。</p> <p>いきいき百歳体操などの地域活動に“参加したくてもできない高齢者の方”の実数やその背景要因を把握するための調査等は、現状として実施しておりませんが、そうした参加への課題を抱えた高齢者からのご相談を受けた場合、市内14か所の地域包括支援センターにて個別的な解決方法を検討するとともに、同様の課題が集積する傾向にないか、個別課題を地域課題として検討し、体操会場の新規開設といった新たな社会資源の開発などを高知市社協とともに実施しております。</p> <p>コロナ禍で、多くの地域活動が制限され「ふだんの暮らし」が変化していますが、そんな状況にあっても、つながりが途切れることなく、お互いの暮らしを気にかけてあうにはどうすればいいのか、感染予防を徹底すればするほど、見守り・居場所づくり・つながりづくりが進まないといった地域のお世話役である住民が抱えるジレンマに対して、“こうすれば絶対にうまくいく”という方法はありませんが、コロナによって地域の居場所が無くなるようなことが起こらないために、今“できる方法”で“できること”を皆さんと共に取り組んでまいります。 【高知市（高齢者支援課）・高知市社会福祉協議会（地域協働課）】</p>

	委員氏名	3 その他	回答
1	三橋委員	<p>今回のコロナ禍で情報弱者やネット環境のない高齢者や児童にしわ寄せがいったと感じる。例えば、緊急事態宣言下の休校による家庭学習やいきいき百歳体操の動画配信、ワクチンの予約などネット活用できる人が得をするような印象だった。</p> <p>日高村のように、村民スマホ普及100%を目指すくらいの取り組みが必要ではないかと感じている。新しい様式にシフトチェンジしていけるように、スマホ活用講座など高齢者支援でも意識していきたい。</p>	
2	葛目委員	<p>コロナワクチン予約で多くの高齢者が困りましたが、地区社協としての対応ができなかったことを残念に思います。日頃地域福祉の対象としている手助けを必要としている方々に対し組織として手をさしのべることはできませんでした。しかし一方で、百歳体操の仲間や近所の人の予約を取ってあげたということは結構たくさんあったようです。「ほおっちょけん」の住民意識が力を発揮した出来事のように思います。</p> <p>急を要する想定外の事態に即応することは組織活動としては馴染まないのかもしれませんが。だからこそ、こんな時のためにしっかりと「地域共生社会の構築」を進めて行かなければならないと思いました。</p>	
3	吉富委員	<p>本議会は、地域福祉という広範囲かつ非常にセンシティブな内容を含み、年間数回のため前回との変化が分かりにくいものだと思います。</p> <p>本来はzoom等で開催できたらと思いますが、比較的高齢で不慣れな方が多いのは容易に想像がつくので、例えば資料を事務局が説明するものを動画で録画し、YouTube等で限定公開（アドレスを知っている人しか見れない）、ファイル共有サイトで動画データをダウンロードできるようにする、DVDに焼いて配付など、少しでも資料について説明を聞きながら送付されてきた紙資料を理解しやすくするというのはいかがでしょうか。</p>	<p>ご提案のあったとおり、地域福祉活動推進計画に関連する資料につきましては、本来、担当者からの詳細報告のもと、委員の皆様にご意見いただくことが重要だと思いますので、今後の協議会につきましては、より委員の皆様に分かりやすい会議の開催方法等を検討していきます。【高知市（地域共生社会推進課）】</p>
4	高橋委員	<p>高齢者の立場からワクチン予約で大きくクローズアップされたスマホなど電子機器？IT関係に弱い年代層への広報の方法について。</p> <p>①紙媒体②活字大きさ、余白を多く③「あかるいまち」や折り込みチラシなど身近で手に取りやすい方法で。などと思ったことでした。</p> <p>計画推進していることを、タイムリーでまめに情報発信していくことでより地域住民のものになるのではないかと思います。</p>	<p>地域福祉活動推進計画の推進内容につきましては、市広報「あかるいまち」に掲載するとともに、その他、地域の皆様にタイムリーに情報発信できるよう、発信方法についても検討していきます。【高知市（地域共生社会推進課）】</p>

5	松下委員	<p>高齢者のコロナワクチン接種に関する高知市の進め方について、特に、予約の段階で「つながらない電話」「使えない、そしてダウンするシステム」などが高齢者や障がい者、在宅医療や在宅介護の方々の接種予約の機会を奪うことになり、要配慮者へ寄り添っているようには見えません。こういう現状は、高知市が目指す「地域共生社会」とは真逆で大変残念な思いがしています。</p> <p>多くの町内会や民生委員さんなどと同様に、私たちの自治会でも、コロナワクチン接種の予約で困っている高齢者を支援するために、ワクチン接種予約代行の取組みをしてきました。</p> <p>この取組みを通じて寄せられた様々な意見や要望、質問などをコールセンターや担当課に届けていますが、なかなか改善につながっていません。</p> <p>また、高知市からの広報が市民に届いておらず、情報不足が市民の苛立ちを増幅させているように思います。特に、ホームページの掲示内容は、簡素な一方的な情報のみが事務的に掲載され、市民が知りたいことが殆ど掲載されていません。</p> <p>毎日、多数の意見や質問がコールセンターに寄せられているはずであり、それらに迅速に答える広報に改善し、市民とのコミュニケーションを充実させていただきたい。</p> <p>今後、コロナワクチン接種は「高齢者」から「基礎疾患」、「その他」へと進みますが、地域共生推進本部等において、これまで明らかになった課題を検証し、改善されることを要望します。</p> <p>尚、改善すべき具体的な課題は多項目に及びますので、別途、問題提起させていただきます。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症に関するワクチン接種について、多くの委員の皆様からご質問・ご意見をいただきましたので、本市の状況についてご説明いたします。</p> <p>最初に、この度のワクチン接種に関しまして、4月23日からの予約受付の開始時に大きな混乱を招き、多大なるご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。</p> <p>また、委員の皆様には、地域住民の方からの相談を受けていただいておりますことにご感謝申し上げます。</p> <p>接種を希望される高齢者のうち、インターネットや電話での予約が難しい方々への対応といたしまして、7月末までを目途に、確実にワクチン接種を受けていただくよう、予約ができていない高齢者の方約22,000人に対し、6月21日に接種のご案内を送付したところですが、単身の方も多数おられることから、居宅介護支援事業所や地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、各障害者団体にも周知を行うとともに、予約支援等についても協力依頼を行いました。</p> <p>こうした取組によりまして、現在、65歳以上の高齢者の個別接種では、約100,000人の対象者数に対し、8月2日時点における1回目の接種済数は85,819件（約85.8%）、2回目の接種済数は78,341件（約78.3%）となっており、全国的にも高い接種率で推移しています。</p> <p>しかしながら、高齢者の方の中には、身体的な理由により外出ができないため、接種に至っていない方もおられることから、現在、市内の居宅介護支援事業所に対しまして、対象者数把握のための調査を行っており、調査結果を踏まえ、訪問接種等の対応策について引き続き検討してまいります。</p> <p>また、「基礎疾患等を有する方」のうち、身体障害者手帳と療育手帳をお持ちの方については、本市が情報を把握していることから、優先的に接種券を送付いたしました。手帳をお持ちでない方に対しても、6月28日から「基礎疾患等を有する方」の接種券の優先発送に向けた申込受付をインターネット及び郵送で開始し、7月1日から順次、接種券を送付しております。</p> <p>次に、障害のある方の接種の推進にあたりましては、障害の種別によって個別の配慮が必要となるため、視覚障害のある方には点字や大活字により接種券等の文書を送付するとともに、地域保健課のホームページに、ワクチンに関する情報や接種可能医療機関等の情報をテキストデータとして掲載いたしました。</p> <p>また、聴覚障害等のある方で、電話での予約が難しい方のために、FAXでの予約申し込みを受け付けるようにするとともに、接種の際に必要な予診票の書き方についてホームページ上に手話動画を掲載するといった取組も行ったところです。</p> <p>一方で、障害のある方の中には自ら予約することが困難な方もおられるため、7月1日の接種券等の発送に併せ、各障害者団体や市内全障害福祉サービス事業所、障害者相談センターにも周知を行うとともに、予約等の支援について協力依頼を行いました。</p> <p>高齢者以外の皆様に対しましては、当初の混乱の反省を踏まえ、年齢区分ごとに、順次、接種券を送付することとしており、これまでに60歳から64歳の方、50歳台の方、45歳から49歳の方、また夏休み期間中に接種を進めるため12歳から19歳の方に接種券を送付しており、引き続き予約の状況やワクチンの供給量を見ながら、混乱をきたさないよう、段階的に接種券を送付してまいります。</p> <p>最後に、一人暮らしの方など、ワクチン接種に関する情報が行き届いていない方もいるかと存じます。本市としましても、居宅介護支援事業所など、民間の皆様にもご協力をいただきながら、引き続き広報を強化していきたいと考えておりますが、地域で活動されている皆様におかれましては、可能な範囲で情報の周知にご協力いただければ幸いです。【高知市（地域保健課）】</p>
6	細川委員	<p>コロナワクチン65才以上の高齢者からは重症化する事から理解出来ますが、変異種増により80才以上は高齢者として医療の方や小さな子供の居る方等を優先する等の変化対応も必要なのではと感じました。</p>	
7	仲田委員	<p>個人的にネットで高齢者ワクチンの接種申し込みをして欲しいというお願いを受けることがあります。個人レベルでは対応できますが、それ以外でもネット申し込みができずに困っているお年寄りがいるかと考えられます。そうした方へのサポートなどは行われているのでしょうか。</p>	